



TITLE:

公共政策における物語型コミュニケーションに関する理論的・実証的研究(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

川端, 祐一郎

CITATION:

川端, 祐一郎. 公共政策における物語型コミュニケーションに関する理論的・実証的研究. 京都大学, 2016, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2016-07-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k19933>

RIGHT:

許諾条件により本文は2017-05-01に公開; 許諾条件により要旨は2016-08-01に公開

京都大学	博士（工学）	氏名	川端 祐一郎
論文題目	公共政策における物語型コミュニケーションに関する理論的・実証的研究		
<p>（論文内容の要旨）</p> <p>本論文は、思考やコミュニケーションの形式としての「物語」に関する既往の学説について分野横断的に調査・分析し、物語型の思考やコミュニケーションの定義やそれがもたらす心理的・社会的効果について理論的な整理を行った上で、公共政策の計画・実践の過程において物語型コミュニケーションを応用する場合の方法及び効果について3つの実験を通じて実証的に検討した結果をとりまとめたものであり、4章で構成される本論と「はじめに」「おわりに」から成っている。</p> <p>「はじめに」は序論であり、本研究が取り組む課題と、本研究全体の構成がまとめられている。</p> <p>第1章は、物語に関する既往の学説を、哲学、文学、言語学、人類学、心理学、脳科学、政治学、社会学、医療など多岐にわたる分野を横断して網羅的に調査し、物語がどのような形式的特徴によって定義されるか、物語はどのような社会的・心理的効果をもたらすか、物語は公共政策の計画・実践の過程においてどのような応用が可能であるかについて、理論的に考察した上で、それらを実証するための研究方針について取りまとめている。</p> <p>第2章は、第1章の検討から得られた物語の定義に基づいて、公共政策に関する情報（リニア中央新幹線の建設プロジェクトを題材とするシナリオ）を物語性の強い情報として構成した場合とそうでない場合において、情報の受け手に与える影響がどのように異なるかを検証した実験（実験1）の結果を取りまとめている。実験1では、物語型の思考やコミュニケーションへの親和性や選好を表す「物語志向性尺度」を独自に考案し、当該尺度の得点を含めた分析を行っており、いくつかの条件下では物語性の強いシナリオがより強い読了効果をもたらすことを実証している。</p> <p>第3章は、実験1において分析の補助を目的として作成した「物語志向性尺度」を、心理測定尺度として今後の研究に活用することを想定して、尺度項目の見直し、構成概念妥当性の検討、他の心理測定尺度との関係性を検討した実験（実験2）の結果を取りまとめている。物語志向性尺度が、十分な信頼性を持ち、概ね想定どおりに構成概念を捉えられていること、そして他の心理測定尺度との間にいくつかの興味深い関係があることが明らかになった。</p> <p>第4章は、実験1及び実験2の成果と課題を受けて、改めて物語性の強いシナリオがもたらす効果を検証するために行われた実験（実験3）の結果を取りまとめている。実験1においては、物語性を「時間性」及び「主体意図性」という2つの性質によって定義していたのに対し、実験3においては「英雄物語型プロット」を物語性の要件に加え、より物語的なシナリオを作成した。また、物語型の情報が態度変容を引き起こす過程を詳細に分析するため、既往研究を参考に「移入」の程度と「状況モデル」の形成度を計測（状況モデル形成度は独自に作成した尺度による）している。実験1に比べて物語性の効果は明瞭に現れ、また状況モデルの形成度が移入の度合いに影響を与えていること、移入が高いほど読了効果が大きくなることなど、概ね仮説を支持する結果が得られている。</p> <p>「おわりに」は本研究全体を改めて概観するもので、本研究の意義として「はじめに」で提示した課題がどのように解決されたのかを述べるとともに、今後に残された研究課題を提示している。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

本論文の主な成果は次のとおりである。

第1章では、多岐に渡る学術分野を横断して多数の物語研究事例を収集し、それらの相互関係と歴史的発展の過程について明快な整理を行っている。第1章の議論は、過去の物語研究の単なる要約や分類に留まらず、一貫した視座のもとに諸研究の関連付けが行われている点、その関連付けに基づき「物語の定義」等について理論的に詳論されている点、近年の実証研究（脳科学など自然科学分野のものを含む）に関するレビューが豊富に含まれている点、そして公共政策における物語型コミュニケーションの活用に向けて今後の実証的・定量的研究の方向性の提案が行われている点に価値があると言える。

第2章において報告されている実験1においては、リニア中央新幹線の建設を題材とする政策シナリオを用いた、物語型コミュニケーションの効果の検証が行われている。またあわせて「物語志向性尺度」の作成が行われ、物語型コミュニケーションに関する選好や傾向が人によって異なることを考慮した分析を可能にしている。実験1においては、効果量こそ大きくはないものの、物語志向性と関連付けた分析を通じて統計的に有意な物語型コミュニケーションの効果が検出されている。

物語型コミュニケーションの効果を実証的に把握するためには、「物語の定義」を明確にするとともに、当該定義に従って実験刺激の操作が厳密に行われる必要がある。実験1においては、第1章の検討を踏まえて物語性の定義を行い、これに沿って明確な手順により物語性の強い政策シナリオと弱い政策シナリオの作成が行われ、かつそれらシナリオは物語性の強弱以外の点においては質量ともに可能な限り差異が生まれないよう配慮されている。これは物語型コミュニケーションの効果を科学的と言い得る手法で検討する上では必須の手続きであると言えるが、既往の研究においてはこの点についての配慮が十分であるとはいえず、本研究において大幅な進歩がなされたと言える。

第3章において報告されている実験2においては、実験1において作成された物語志向性尺度の構成の見直しと、その信頼性及び構成概念妥当性の検証、そして他の心理測定尺度との関係の分析が行われている。既往の研究においては、物語に関わる心理的傾向の測定は、文芸作品の読解を対象とする狭義の物語研究において行われているのみであったが、本研究においては「人間の思考やコミュニケーションの性質としての物語」に関する心理的傾向を対象とした測定が試みられており、この点に新規性が認められる。

因子分析及び信頼性分析の結果からは、研究目的に合致した質の高い心理測定尺度が構成されていると理解することができる。構成概念妥当性の検証のために行われた隣接領域の心理測定尺度との相関の分析においても、概ね仮説通りの結果が得られており、物語志向性尺度の有用性が確認されている。また実験2においては、物語志向性が「心理的健全性」に関わる様々な心理測定尺度とどのような関係にあるかが分析

京都大学	博士（工学）	氏名	川端 祐一郎
------	--------	----	--------

されており、とりわけアイデンティティの形成や、自らの人生の関する時間的展望や、（反公共的性質の一つであると言える）大衆性との間に興味深い関係があることが明らかになった。これらの点で実験 2 は、既往の研究が示唆する物語型の思考やコミュニケーションの性質を定量的・実証的に裏付け、また一部意外性のある性質も見出すことで、物語研究の深化に貢献していると言える。

第 4 章において報告されている実験 3 は、実験 1 の結果を受けていくつかの点で手法の改善を試みたシナリオ実験であり、実験 1 に比べてより明瞭な「物語型コミュニケーションの効果」が検出されている。また、「状況モデル」の形成や「移入」の度合いについても計測が行われており、既往の研究から示唆される物語接触の効果が多面的に確認されたと言える。

このように実証的データが得られた点に重要な意義があることはもちろんであるが、実験に用いるシナリオの作成過程で物語性の強弱を表現する手順が明確に示されており、これは物語的なシナリオを作成するための技法と捉えることが可能であって、コミュニケーションの実践に応用可能な具体的な知見が得られていると言える（この点は実験 1 にも共通して言えることである）。

以上の通り、本論文は、公共政策における合意形成研究及び物語研究の領域において重要な意義を持つ新規な知見を提供し、それらの知見の社会工学的実践への応用も十分に想定され得る成果をもたらしており、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成 28 年 6 月 23 日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行って、申請者が博士後期課程学位取得基準を満たしていることを確認し、合格と認めた。

要旨公開可能日：平成 28 年 8 月 1 日以降